

平和について考える

～ 歴史と記憶の継承 ～

📞生涯学習課人権・同和教育係 ☎0943-32-0093

平和主義と日本国憲法

日本の平和主義は、日本国憲法第9条に代表される「戦争の放棄」や「戦力の不保持」「交戦権の否認」など、世界的に見ても非常に強い決意を持った規定として知られています。根底には「二度と戦争の惨禍を繰り返さない」という願いが込められています。戦後80年以上が経過し、戦争経験者から当時の話を聞ける機会は少なくなりました。戦争を経験していない私たちには、「どのように記憶を受け継ぎ、次の世代へつないでいくか」という、大きな課題があります。

日本の平和主義（日本国憲法第9条）

- ① 戦争の放棄（第1項）
国際紛争を解決する手段としての戦争・武力行使を永久に放棄する
- ② 戦力の不保持（第2項前段）
陸海空軍そのほかの戦力は保持しない
- ③ 交戦権の否認（第2項後段）
国家として戦闘行為を行う権利（交戦権）を認めない

現代の国際情勢とこれからの平和主義

8月は、広島・長崎への原爆投下や終戦の日など、歴史を振り返る重要な日が重なることから、「平和」について考える節目の月です。

世界の緊張が高まる中で、日本が未来に向けてどのような平和に貢献していくべきか考える必要があります。国の政策としてだけでなく、私たち一人ひとりが、日々の生活の中でどのように平和の実現に向けて実践していけるか、という事も問われているのではないのでしょうか。

令和七年度広川町人権作文

「普通の毎日が守られる世界」

広川中学校二年（現三年）

松本実桜

テレビを見ていたとき、外国で戦争が起きているニュースが流れてきた。そこには、壊れていく街の中を人々が逃げていく様子が映っていた。子どもたちが涙を流しながら、

ただ立ち尽くしている姿が、頭から離れなかった。

その時私は、「昨日までは、私たちと同じように、友だちと遊んだり、家族とご飯を食べたりしていたのかもしれない」と考えた。戦争は、普通の毎日を奪うだけでなく、人が人らしく生きるための権利である人権も奪っていく。

人権とは、すべての人が持つ大切な権利だ。安全に生きること、自由に考えを持つこと、学校に行き学ぶことなど、生きている限り守られるべきものだ。しかし、一度戦争が始まると、その当たり前があつという間になくなってしまふ。爆弾や銃におびえ、自由に動くこともできなくなる。家族と離れ離れになったり、家を失ったりすることもある。

私はスマートフォンを持っていないけれど、ニュースや授業を通じて、戦争のことを知ることができる。知れば知るほど戦争を繰り返してはいけないと思うようになった。世界のどこかで、戦争があるということ、人権を奪わ

れている人が今もいるということでもある。平和とは、ただ争いがないことだけではなく、お互いの違いを認め合い、思いやりを持って生活できることだと思う。例えば、違う考えの人に「それもいいと思うよ」と言えることや、困っている人に「どうしたの」と声をかけることなど、一つひとつの小さな行動が、人権を守る力になっていくと思う。

戦争をなくすために、私一人ができることは少ないかも知れないけれど、人を傷つける言葉を使わないこと、ニュースに目を向けること、人の気持ちを考えることはできる。身近なところから平和を作っていくことが、未来の戦争を防ぐ第一歩になるのではないかと考えている。

私はこれからも、普通の毎日を大切にしていきたい。そして、どんな人でもその人らしく生きていられる社会を目指していきたい。争いのない世界は難しいかもしれない。でも、その願いを持つ人が増えれば、きっと平和は少しずつ形になっていくと思う。

学校教育

☎子ども課学校教育係 ☎0943-32-1194

町内の小中学校の
重点目標などをご紹介

広川中学校

● 石橋由圭 校長 (写真左)

「生徒一人ひとりが安心して過ごし、自分のよさを発揮できる学校」を目指します。学力を身に付けるだけでなく、思いやりの心や自ら考え行動する力、失敗を恐れず挑戦する気持ちを育てます。そのためには、「学校が楽しい」「明日も行きたい」と思える毎日積み重ねることが大切です。子どもたちは、学校だけでなく、家庭や地域の中で多くのことを学び、成長していきます。これからも、保護者や地域のみなさんと力を合わせ、子どもたちの笑顔と成長を支える学校づくりに努めます。



● 野口朋美 教頭 (写真右)

子どもたちのあいさつできる姿がとても印象的です。行事に前向きに取り組み、一人ひとりが自分の役割を果たそうとする姿から、子どもたちの成長を強く感じます。素直で思いやりがあり、助け合う姿もたくさん見られます。

今年度は、こうした良さをさらに伸ばすために、自分から行動する力を支えていきます。あいさつや優しい言葉が自然と広がるあたたかい集団づくりを進め、地域の人とのつながりを大切に、子どもたちが自分の良さに気づき、より自信をもって表現できる活動を推進します。



▲広中体育大会「選手宣誓」

上広川小学校

● 今村洋 校長 (写真左)

「自分も友達も大切にしながら安心して学び、自分の思いや考えを分かりやすく表現できる学校」、「家庭や地域と共に子どもたちの成長を支え、温かく活力のある学校」を目指します。

「自分の考えをわかりやすく表現する子どもの育成」を重点目標に掲げています。その根底にあるのは、相手を大切に思う心です。学校生活のさまざまな場面で、自分の思いや考えを伝え、互いの良さや違いを認め合うことを大切に、豊かな人間関係と確かな表現力を育んでいきます。



● 西村小夜子 教頭 (写真右)

本校の子どもたちは、素直で思いやりがあり、友達や地域のみなさんとのつながりを大切にしています。異学年で協力し合う場面が多く、上級生が下級生を思いやる姿、お互いを支え合う姿が日常的に見られます。

学習においても、相手の話をしっかりと聞き、真面目に取り組む姿勢が身に付きつつあります。自分の考えを話したり書いたりする内容や、友達と考えを交流する場面を積極的に取り入れます。一人ひとりが自信をもって表現し、共に学び合える学校づくりを進めます。



▲上広ソーラン「響け！どっこいしょ！」

各小中学校の校長先生に「どんな学校にしたいか」「どんなことを大切にしたいか」、教頭先生に「子どもたちの良さ」「伸ばしていきたいところ」を伺いました。



中広川小学校



● 田中真由美 校長 (写真左)

「自ら考え行動する子どもの育成」を重点目標に掲げ、子どもたちが互いに関わりながら、自分の力を発揮し、伸ばせる学校を目指します。そのためには、「安心して話せる環境」と「挑戦の機会」が大切です。全校読書や相手を傷つけずに気持ちを伝える学習で、考える力や伝える力を培い、相撲・反復横跳びなどの「運動チャレンジ企画」で挑戦する力を育んでいます。学校・家庭・地域が協力し、地域の宝である子どもたちが生き生きと輝ける環境を創りたいと考えています。

● 栗山信弘 教頭 (写真右)

「おはようございます!」と響く元気な声から一日が始まります。友達の頑張りを素直に認め合い、困っている人には自然と手を差し伸べることができる子どもたちです。学習や運動に真剣に向き合う姿や学校生活のさまざまな場面で見せる優しさや思いやりに、確かな成長を感じます。

優しさや思いやりをさらに育み、自ら考え、挑戦し、最後までやり遂げる力を伸ばします。多様な考えに触れ、自分の思いを表現できる力も大切です。「友達と学べる学校が楽しい」と実感できる教育活動を推進します。



▲大きな声で朝のあいさつ

下広川小学校



● 跡部正徳 校長 (写真左)

「進んで自己決定・自己解決できる子どもの育成」を重点目標に掲げています。変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには、自ら考え、判断し、行動する力が不可欠です。その実現に向け、「子ども主体の活動」を積極的に推進します。子どもたちだけで創り上げる場を学校生活の中に多く設定し、試行錯誤しながら自ら解決する姿を見守ります。その過程で見られる努力や活躍をしっかりと褒め、認めることで、一人ひとりの「自己肯定感」を高めていきます。

● 中村実和子 教頭 (写真右)

目標に向けて諦めずに努力する粘り強さや、学校行事・学級活動で互いに協力する協調性を備えた子どもたちです。体を動かす事が大好きで、活力にあふれ、ICT※活用能力も着実に向上しています。

ICTを用いた情報収集や意見集約を取り入れ、子どもたち自身が計画し、創り上げる活動を大切にしています。学校生活をよりよくするために、子どもたちが主体となつて協働・実践する場を豊富に設定し、仲間と知恵を出し合いながら集団の絆を深め、一人ひとりの主体性と豊かな社会性を育んでいます。



▲全力で心を一つにした応援合戦